

会報「技術士しそーか」

公益社団法人 日本技術士会 中部本部 静岡県支部
事務局連絡先 Phone：080-9194-4715 E-mail：ipej-shizu@ipej-shizu.sakura.ne.jp
支部長：加藤信之 事務局長：松世麻理子 会計：小澤 靖 広報：水野俊兵

特集 防災

静岡県支部では、防災活動を積極的に実施しています。
今回は、その一部をご紹介します。
皆様もぜひご参加ください。



撮影：加藤

2022年9月6日 静岡県裾野市 水ヶ塚公園より 富士登山直前の風景

目次

今の特集 ～防災～

- 静岡県支部の防災活動ご紹介（事務局長 松世麻理子）** P.1
静岡県支部では、事業推進の基本方針として地域社会への貢献を掲げています。その一環として行っている防災活動についてご紹介します。
- 防災・減災ワークショップ（防災委員会 吉田健彦）** P.2
7月30日に「防災・減災ワークショップ」が開催され、防災委員会、防災研究会のメンバー有志が展示物の説明を行いました。
- 熱海市からのお礼状、台風15号対応（事務局長 松世麻理子）** P.3
熱海市より土業連絡会へお礼状いただきました。台風15号対応は現在も継続中です。

TOPICS

- 第2回CPD例会講演録（CPD委員 内藤克巳）** P.4
8月20日に開催された例会は、静岡県の名産、お茶についての講演でした。
- 役員自己紹介（事業開発委員長 土井俊幸）** P.5
パワフルに事業開発を行う委員長は、素敵な休日を過ごされています。
- 今後の予定、編集後記** P.6

表紙 2022年9月6日 加藤 信之（撮影者）

○撮影場所：静岡県裾野市 水ヶ塚公園より富士山を臨む

水ヶ塚公園は、富士山富士宮口の拠点となる公園です。富士登山期間中、登山道路の渋滞緩和と環境保護のため、ここから五合目までシャトルバスが運行されています。

2020年はコロナウィルスまん延のため富士山は閉山、2021年は開山されましたがマスク着用での登山でした。2022年になりやっと通常登山ができるようになりました。

また、この日は台風が過ぎ去った直後のため強風でしたが、快晴となり遠くの方まで展望でき大変幸運だったと思います。

裏表紙 同日 富士山頂から下界を臨む

写真ではわかりにくいですが、伊豆半島～駿河湾がしっかりと確認できます。

静岡県支部の防災活動ご紹介

静岡県支部では、事業推進の基本方針として地域社会への貢献を掲げています。その一環として行っている防災活動についてご紹介します。

日頃からの防災活動

▶ 防災・減災ワークショップ支援活動

静岡県地震防災センターで行われる「防災・減災ワークショップ」((公財) 中部科学技術センター中部サイエンスネットワーク主催)に参加しています。

▶ 小冊子「家族で考える防災 Q&A」発行

この冊子は、日本技術士会統括本部の防災支援委員会が作成した「親子で考える防災 Q & A」をもとに、多くの県民の方が活用できるよう静岡県版として 2019 年に作成しました。

▶ 「場所ごとの防災マニュアル」作成

場所ごとに地震の揺れに襲われたらどんな行動をとればよいのかを、わかりやすい図解でまとめています。静岡県支部のホームページからご覧になれます。

▶ 「災害時の現地支援活動マニュアル」、「被災者現地支援活動 Q&A」作成

災害発生時に、現地支援活動をスムーズに行えるように作成しました。静岡県支部のホームページからご覧になれます。

災害発生時の援助活動

▶ 令和元年度台風 19 号災害支援活動

令和元年台風 19 号災害支援活動として静岡県災害対策士業連絡会と共に伊豆の国市・函南町で相談会を行いました。静岡県支部としては初めての、現地での支援活動でした。

▶ 令和 3 年度熱海土砂災害被災者支援活動

令和 3 年熱海土砂災害被災者支援活動として静岡県災害対策士業連絡会と共に熱海市で相談会を行いました。

▶ 令和 4 年度台風 15 号災害支援活動

現在、活動中です。

災害発生時の協定

静岡県支部では、以下の通り複数の自治体等と災害協定を交わし協力体制を整えています。

締結日	自治体/団体	名称
平成 27 年 11 月	牧之原市	災害時における相談業務に関する合意書
平成 28 年 3 月	静岡市	災害時における市民への復興まちづくりの助言に関する協定書
平成 30 年 12 月	静岡県災害対策士業連絡会	災害時における相談業務に関する合意書
平成 31 年 3 月	静岡県	大規模災害時における被災箇所の復旧に係る助言に関する協定書

今後も、防災活動による地域貢献を行っていきたいと考えています。(事務局長 松世麻理子)

今の特集 ～防災～

防災・減災ワークショップ

昨年に引き続き、（公財）中部科学技術センター中部サイエンスネットワーク主催の「防災・減災ワークショップ」が開催され、静岡市周辺在住のご家族の方向けに、県支部防災委員会および防災研究会のメンバー有志が展示物の説明を行いました。

日時 2022年7月30日（土）

場所 静岡市 静岡県地震防災センター

活動内容：講演、地震体験、及び展示物案内
技術士会県支部支援活動：

展示ブースでの説明、富士山噴火時の状況
発災時の生活・防災グッズ・避難所運営
資料配布

自治会自主防災組織の活動、

「家族で考える防災 Q&A」

技術士会県支部参加者 5名

（加藤、馬淵、山之上、大嶽、吉田）

※技術士会ロゴ入りビブス着用

来館者人数：児童親子 合計 64名（満員御礼）

プログラムは3部構成で、第1部は静岡大学防災総合センターの原田賢治准教授と、東北大学災害化学国際研究所の保田真理プロジェクト講師による講演でした。それぞれの講師の方が災害について科学的に説明しましたが、参加者の小学生レベルまで理解ができる内容で、参加者の皆さんは満足したと思います。



図 2-1 案内チラシ(静岡県地震防災センターホームページより)

続いて第2部です。参加者はセンター内に設置されている各ブースをポイントカード式で全部回ります。技術士会のメンバーは、担当



図 2-2 富士山噴火の説明をする加藤会員
するブース展示物について説明しました。
説明担当ブースは、富士山の噴火と地震について、および発災時の生活や防災グッズなどです。富士山の噴火の説明時には、センター内にある富士山の3Dモデルと3Dプロジェクタ(図2-3)が威力を発揮し、噴火時の火砕流の発生や溶岩流の時間ごとの推定値などがビジュアル的にわかるようにセットされています。これであれば、富士山周辺に住んでいない小学生にも噴火の怖さを理解してもらえたかなと思います



図 2-3 自治会自主防災組織を説明する山之上会員



図 2-4 発災時の生活・防災グッズ
・避難所生活の説明をする馬淵会員

まとめ

今回の「逃げるかがくは役に立つ」イベントは名古屋の中部科学技術センター主催の毎年恒例のイベントであり、県支部でも毎年参加しています。この活動に参加する方々は小学生がメイン（おそらく夏休みの自由研究の一環が主だろう）であり、防災にしる、技術にしる、私たちの技術士活動自体をアピールしていく必要があります、その方法は、子供でも分かりやすく説明することが大事なのだと改めて認識した次第です。また、ご家族で参加された方がほとんどであり、家族内でのコミュニケーションも十分できていて、万が一発災したとしてもお互いのことを思った避難活動ができるのかなと思いました。このようなご家族であれば、将来の日本も安心ですね。

（防災委員会 吉田健彦）



熱海市からのお礼状

熱海市より、令和3年熱海土砂災害被災者支援活動に対して士業連絡会に対しお礼状をいただきました。ご対応いただいた皆様、ご協力ありがとうございました

静岡県災害対策士業連絡会の皆様へ

時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。
「令和3年7月熱海市伊豆山土石流災害」に際しましては、被災直後から1年以上の長きにわたり、各士業の専門知識を以って「生活なんでも相談」を開催し、被災された方々の様々な相談に対応していただきまして、誠にありがとうございました。
熱海市にとって未曾有の災害により、多くの尊い命が失われ、住民の生活が一変した中で、士業連絡会の皆様の温かく、そして親身に接する御支援は、被災された方々にとって一束の光明となりました。
今後の被災地域の復興・復興につきましては、被災された方々そして地域の声をしっかりと聴きながら、既に策定した「伊豆山復興基本計画」、及び「伊豆山復興まちづくり計画」に基づき、各種復興事業を着実に推進してまいります。
どうかこれからも、伊豆山の方々に寄り添っていただき、そして、熱海市を見守っていただきますようお願い申し上げます。
まずは略儀ながら、このたびの御厚情に対し書中をもちましてお礼の御挨拶を申し上げます。

令和4年10月
熱海市長

齊藤 栄

図 2-5 熱海市からのお礼状

台風 15 号対応

台風 15 号被災後、当支部が加入している静岡県災害対策士業連絡会は、直ちに被災者支援活動を開始しました。県支部も「災害時支援活動計画」に沿い、10月2日20時に「防災会議」を開催し、被災者支援活動への参加を決定しました。現在も有志が活動を続けています。状況が落ち着き次第状況をご連絡します。（事務局長 松世麻理子）

第2回 CPD 例会講演録

静岡県の茶の生産量は、毎年減少傾向で、ペットボトル茶の需要は堅調だが、急須で淹れる茶の生産量は年々低迷しています。静岡県内の茶業は個人経営が多いので、高齢化に伴う減少が原因でしょうか。今回、「ChaOI」より、静岡茶復活への礎についてご説明いただきました。

1. 概要

日時：2022年8月20日(土) 14:30～16:20

参加者：29名

講演：事例から知る ChaOI フォーラム活動

講師：ChaOI フォーラム事務局

事業推進部長 石神 崇彦 氏

コーディネーター 後藤 昇一 氏

コーディネーター 福島 寛孝 氏

2. 開催内容

(1) ChaOI フォーラム活動の概要

石神氏より、ChaOI フォーラムの全体活動について説明をいただいた。活動の目的は静岡茶の需要創出に向けた新商品開発や販路拡大、需要に応じた生産構造の転換、複合作物の導入等の取組に対し支援である。

支援として、①新商品開発支援事業、②販路開拓支援事業、③複合作物のスタートアップ支援事業、④需要に応じた生産構造の転換支援事業、⑤輸出需要に対応した生産構造の転換支援事業、⑥輸出向け HACCP 対応施設等の導入支援事業がある。また、各支援メニューについて、事業実施主体（実施者）と補助率の要件がある。

(2) 生産構造転換支援の事例紹介

後藤氏より、具体的な生産構造転換支援の事例紹介をいただいた。

現在、急須使用茶は減少、一方、茶飲料は増加している。茶生産額の推移では、静岡は減少方向である。茶産業界の問題として、経営母体や経営方式の問題、組合員の高齢化がある。

支援事例として、複合作物のスタートアップ事業、輸出向け栽培茶の転換、機械化の転換を支援メニューの一環として紹介。課題としては、①組織経営体が見ていない、②生葉品質のばらつき、外部からの入り作者の増加、③地元担い手の集積と効率的管理の支障がある。

茶園の安定化の組織づくりは大切である。高齢化で運営が難しい中で、人・農地プランの話し合い、国の農地中間管理事業の有効活用、農業法人（集落型法人）、個別

農家作業受諾連携も視野に入れる必要がある。多くの問題、課題が山積しているが、問題は放置すれば衰退の種、課題化・ビジョン化すれば成長の種となる。

(3) 販路開拓支援の事例紹介

福島氏より、販路開拓支援の事例紹介をいただいた。支援の目的として、新事業の組立て、茶の販売促進に焦点を置く。ここでは、新しい発想と柔軟な対応が要求される。具体的な考えとして、①遠くの人とパートナーを組む（静岡ー海外、茶業界と全く違う、年齢の差）、②遠く離れたところに大きなヒントあり（他業界の常識が茶業界では革新に取られる）、③自身におかれた立ち位置を考察（どういったところを目指すのか、異業界とのコラボ）である、

事例として、地元料理とお茶を提供する、料理人と茶農家との協業。アニメの著作権を使用して、アニメと茶農家のコラボレーション。茶の海外販売を目的として、従来の茶の海外商流とは別の経路を使用した、海外向け刃物メーカー、製茶問屋と茶農家の組み合わせを紹介いただいた。

3. 所感・アンケート結果

(1) 所感

日本国内の多くの業界共通の課題である後継者対応と経営改善、従来産業の常識からの脱却と異分野との融合、国内から海外への視点切り替えを改めて考えさせられた。地元、静岡茶の活性化は、静岡県民の期待するところであり、これら課題解決の事例を学び、応用展開するヒントを得た。

(2) 参加者コメント（一部・抜粋）

・茶農家の現状状況、お茶を活かした事業を知ることができた。

・茶自身の付加価値を高めるコラボとそのPRが大切だと思う。

・ChaOI 活動をもっとアピールすべき。

・緑茶は健康や老化防止に有効、国内の緑茶摂取の機会向上となる商品開発が必要。

（CPD 委員 内藤克巳 機械・化学・総合技術監理）

役員自己紹介（事業開発委員長 土井俊幸）

いつもお世話になります。事業開発委員長の土井です。日頃から事業開発委員会にご理解とご協力をいただき有り難うございます。



最初に事業開発委員会を紹介させていただきます。本委員会は、地域産業の活性化や防災に関する自治体等の施策に対する支援や協力を行うこと及び技術士業務に関する外部からの依頼に柔軟に対応することを目指して活動しています。本委員会の所掌事項は次のとおり定められています。

- ①県・市との各種提携事業の計画立案と事業推進
- ②部外からの各種技術士業務依頼対応
- ③他団体（静岡県ものづくり支援センター、静岡県産業振興財団、日中友好協議会等）との連絡・調整業務
- ④その他役員会が定める活動計画立案と実施

したがって、静岡県の地域産業の活性化や防災等に貢献することで、県内「技術士」の価値向上に少しでも寄与できればと考えています。

続けて、少し自己紹介をさせていただきます。沼津市在住で現在電機メーカーに勤めています。配属当初は産業用コンピュータの開発設計に携わっていましたが、2009年より全社の環境経営を推進する立場にあります。2014年技術士環境部門に合格し、2018年より静岡県支部役員を務めています。

私生活では以前より車が好きなので、最近も家族（妻と犬）とともに全国をドライブして、美しい景色を眺め、美味しいものを食し、温泉に浸って、休日を楽しんでいます。

最近は訳あって島根県益田市によく出かけます。沼津～益田は往復約1,600kmで日帰りも経験しました（24時間以上かかりましたが…）。

何回か益田市に行った帰りに、出雲大社や松江城を訪ねたのですが、昨年12月安来市に寄った際に行った足立美術館が忘れられません。その日は平日で朝一番だったこともあり、それほど混んでいなかったものでゆっくり鑑賞することができました。

足立美術館と言えば面積5万坪に及ぶ日本庭園が有名ですが、それはそれは見事でした。「庭園もまた一幅の絵画である」という言葉どおり、絵画のように美しい庭園で国内はもとより海外でも評価が高くインバウンドの方も多く押し寄せるようです（当日はコロナ禍の影響でほぼ見受けませんでした）。日本庭園における造園技法のひとつである「借景」の手法が採られ、彼方の山や木々までも取り込んで織り成す造形美は秀逸です。ぜひ皆様も機会があればお寄りください。



足立美術館 白砂青松庭（2021/12/03 撮影）



愛犬の Jessica

最後に、今後とも静岡県支部及び事業開発委員会に対して、皆様のご理解とご協力を賜りますよう改めてお願いいたします。併せて、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

（事業開発委員長 土井俊幸）

■今後の行事予定

No	日時	行事
1	2022年12月10日(土)	静岡県支部 第5回 例会
2	2023年2月18日(土)	静岡県支部 第6回 例会

※会員の方には、メーリングリストにて随時行事の案内をお知らせ致します。

■編集後記

静岡県支部会報 176号をお読みいただきありがとうございます。

今号の特集は防災です。台風15号は静岡県に甚大な被害をもたらしました。こんな時に技術士は何かできるのかを、今後とも考えていきたいと思えます。(松世)



2022年9月6日 富士山頂上より下界を臨む